

タイトル:入管・難民の問題に取り組む学生団体「○○」を紹介

導入)「○○」(エール)は入管・難民問題といった社会問題に真っ向から向き合っていくために2023年に設立された学生団体です。

某大学のメンバーが難民として困っている外国人に寄り添い、向き合うために入管収容所に訪問し解決を図っていく活動をしています。

今回は「○○」の設立の背景、団体のビジョンと目標、具体的な活動内容、そして、今後の展望について「○○」代表者の毛利さんと降旗さんの二人にMIRASUS編集部が話を聞きました。

目次

- 1 「○○」設立の経緯
- 2 具体的な活動内容
- 3 団体活動の特徴

「○○」設立の経緯

—団体の設立年、設立目的、立ち上げの経緯を教えてください。

2023年設立

大学の様々な学部や学科の中で異文化や多文化について学ぶ学生が増えてきました。

その中から出てきた問題に対してどのように向き合い、活動していきたいと思いました。

既に別団体で入管問題の解決に向けて取り組んでいた毛利さんと一緒に、立教大学内でも立ち上げようと話し合い、二人で一緒に立ち上げることにしました。

—団体名の由来を教えてください。

団体名である『○○』はフランス語で○○という意味をもちます。

○○という名には○○という強い願いが込められています。

―団体のビジョン・ミッションを教えてください。

「差別のない真の意味での共生社会の実現」です。

入管問題は決して在留資格のない非正規滞在者だけの問題だけで終わらせてはならないと思います。

私たちは、入管から非人間的扱いを受けている当事者の支援だけでなく、その根源にあるものに目を向け、差別がなく、全ての人に人権が認められる社会を目指しています。

そのために、何ができるかを私たちは、中期的、短期的な目標を置き、それぞれに支援ができるよう取り組むことにしました。

中期的な目標としては非正規滞在者の在留資格の獲得です。

より早い在留資格の獲得を目指し、自分たちに何ができるかを当事者の人たちと一緒に考えていきます。

短期的な目標としては非正規滞在者の心理的安定と生活サポートです。

非正規滞在者が安心できるような心理的な支援、非正規者の話を聞いて入管に困ったことを伝えてあげたりするなどした生活支援になります。

また、より多くの人にこの問題を知ってもらってうことで、国の方針を変えていってほしいという思いから、イベント活動や抗議行動などの政治的活動にも取り組んでいます。

具体的な活動内容

―現在の主な活動を教えてください。

11月25日の会では在留資格がなく何十年も日本に暮らしている方を学内にお呼びしてハイブリッド形式でその方にお話ししてもらいました。

当事者の方もお話をすると精神的に落ち着いたり、料理をすることで落ち着く方などもあります。そういう方とこれからもイベントや活動をしていきたいと思っています。

―主な活動を詳しく教えてください。

週に一度、オンラインミーティングを行っています。

また、活動の軸になっているのが入管収容所への面会です。

月に2～3回程で品川の入管収容施設や留宿にある入管管理センターで面会活動をしています。

当事者の置かれている状況や声を聴き、具体的に支援者として何が求められているかを把握し、ブラックボックス化している入管収容所内部の状況を掴むために行っています。

また、上記にあるように同世代に対して認知度を上げるため、立教製・大学生向けのイベントを開催しています。

—企業さんとのコラボ活動などもあるのですか？

仮放免の子供たちの絵画作文展や仮放免者の話をお呼びした会を他の団体と一緒に行いました。

昨年の入管法の成立に対して当事者の方と一緒に抗議行動をしたこともありました。

—現在のメンバー数と組織構成を教えてください。

4年生合わせると5人くらいです。

団体活動の特徴とは？

—他団体と違う何かユニークな特徴があれば教えてください。

私たちの特徴的な点は、当事者主体の活動を実践すべく、継続的に入管収容施設に訪問し、実際に当事者と面会を行うことで、当事者本人から直接生の声を聞いていることであると思います。

継続的な当事者との面会活動はこの理念を体現する上で不可欠です。

実際の当事者が置かれている困難な状況とは具体的にどのようなものなのか、当事者から具体的になにを求められてるのかを理解する最も重要な活動としてAileでは位置づけています。

—活動を行う中でのやりがいや、反対に大変なことを教えてください。

入管問題や日本の難民問題について、1人でも多くの方に関心を持っていただいた時にやりがいを感じます。

私たちは、入管での面会活動を活動の中心におき、道理のない入管の現状や当事者が置かれた立場をまずは知り、当事者の道理ある訴えを聞くことから活動を進めています。

大学内外問わず、入管の状況や当事者の声を伝えることで、問題を解決していくために、問題を知ってもらい、行動に繋げていく仲間が増えた時にやりがいを感じます。

入管問題をあまり知らない方に、まずは問題に関心を持ってもらうようにするためのきっかけづくりをしていくことが難しいです。

大学の中で活動が制限される現状があり、そこに難しさを感じます。

活動内容がセンシティブな内容のため他の団体に比べたら制限が出てきてしまうところもあります。

—団体に入ってから学びや気づきなどがあれば教えてください。

入管問題の報道等もあり、問題について知る人たちが増えてきたが、まだまだ日本に難民がいる事自体知らない人が多いことに気づきました。

今まで暮らしていた場所を追われて日本に来たほとんどの人に難民申請が通っていないということも知りました。

そういう状況を知らない人が多いので『なんでわざわざ日本に来たんだろう』と思う人がいるのだろうと思います。

—団体に加入するのはどんな入会理由が多いですか？

留学経験があったり、多文化共生に関する講義を受けたりなど、海外に興味関心のあるメンバーが多いです。

—最後に、今後の活動方針について教えてください。

面会活動は軸になるので継続していきたいです。

当事者の方をお呼びした講演会も継続して行っていきたいと思っています。

上映会などの取り組みもやってみたいです。

入管問題の問題はジェンダーの問題や性的マイノリティの問題、貧困の問題、差別の問題等も同様に構造的な社会問題にもつながっています。

他の社会問題に取り組んでいる学生とも一緒に何かコラボみたいな形で活動を試みたり、何かイベントみたいな活動を試みたりできないかを考えています。

—今回はお話を聞かせていただきありがとうございました。

2023年2月団体設立

2023年8月「〇〇さんの料理教室」実施

2023年10月・12月「〇〇へ〇〇に行こう！」実施

2023年12月「〇〇の話を聴く会」実施